

コロナで思う「過去は未来！」

許斐 喜久子 (このみ きくこ/関西グループ)

私は戦後生まれ、戦争に行った父が何とか帰還して生まれた。産婆さんから「赤ちゃんの体を洗うのに卵がいいのですが」と言われた母には洗濯石鹸しか無かった。小学生の時は1クラス55人、後ろまでギューギューの教室だった。こども時代は皆貧しく、何もなかった。空き缶でままごと、缶けりをして遊んだ。しかし食べ物はあったし、優しい父母もいた。父母は家の周りで畑を作り、玉ねぎ、ジャガイモ、ネギ等を作っていた。厠から糞尿を運んで肥料にしたから、こども達には回虫がわいた。時々飲まされる「マクリ」の臭さには閉口した。母は四人のこどもの食事作りに畑、草を燃やしての風呂沸かし、服も手作りだった。洋裁学校に通って服を作り、遠足の朝には新しい服が出来上がっていた。ピアノの発表会には赤いドレスも作ってくれた。お正月に晴れ着も着ないで働く母が可哀想に思ったが、こどもたちはトランプで遊んでいた。夏に家族で保養所に一泊するのが年に一度の楽しみだった。もっと貧しい家庭に育った夫は家族旅行なんてした事もなかったらしい。そんな時代だった。

今コロナで引き籠っている私は母のように草を刈ることもないし、畑を耕すこともない。風呂を沸かすのも指ひとつ、料理も手抜きをしようと思えば買って来るだけ。友達とも会えないし、孫とも会えない。たまの旅行にも行けない。夫と行こうと申し込んだ安いクルーズ船旅行もキャンセルになったし、東京の孫にも会えない。奈良の孫もコロナを心配して来ない。友人とのランチも、歌の会もない。企画した落語会も中止になったし、協議会の会議も書類決裁

になった。夫は趣味のグリーも中止になったので、本を読んだり、友人達とメールしたり、DVDやテレビを見たりしている。仕事が無いので、私の領域に侵入してくる。洗濯物を干したり、洗い物をしたり。

環文関西の友人に聞いてみた。コロナに罹ったら大変なのでどこにも出かけないというMさん、老人施設に入っておられるNさんは外との行き来が無いので内部で歌の会を作ったとか。介護の仕事をしているTさんは気を使って大変らしい。また奈良で初めての感染者になった方は近所のバッシングで引っ越しされたと彼女から聞いた。会社勤めのSさんは初めての在宅勤務に戸惑っておられる様だ。

とにかく都会ではすることが無い。昔の母のように野菜を作ったり、草を刈ったりできない。服も買った方が安いし、子供も車や人が怖くて外で遊べない。人が密集しているから、3密がダメなら家でじっとしているしかない。かくて孫はプログラミングを始め、お手玉が上手になったらしい。私は母の見様見真似で始めた手仕事が好きで、マスクを作り始めた。近所の薬局が売ってくれる事になり「コロナ需要」で起業とあいなった。コロナの終息はあるのかなあ？昔なら3密もないし、外から人も来ないし、野良仕事もあるし、食べてはいける…石油が来なくても風呂が沸かせる。とにかく人間が増え過ぎた。恐竜が隕石で絶滅したように、人類は滅びるのかなあ？

